

平成30年度（第7期）事業報告書

（平成30年1月1日～12月31日）

公益社団法人 国際IC日本協会

I 総括

【はじめに】

（公益社団法人7年目、公的事業・広報活動・事務運営の改革2年目・・・時代の変化へ対応）

- ・公益社団法人国際IC日本協会（旧MRA日本協会）は、昭和50年(1975)任意団体として設立、昭和59年(1984)に文科省所管の社団法人、平成24年(2012)内閣府所管の公益社団法人となっている。
- ・社会環境の変化とグローバル化の進展から、「道徳や哲学」が再度求められている。当協会の活動も期待されながら、運営体制が整わず対応できていない、柔軟な発想での取り組みが必要である。
- ・当協会の会員も多様化しており、ご高齢の会員がいつまでもその能力を発揮していただくこと、在留外国人の皆様が会の活動に参加しやすくすること、次代の子供たちが参加しやすいことなどを目標に、交流会、学校訪問、国際フォーラム等で挑戦した。
- ・本年度試みたことには、学校訪問事業の復活（3,000名超の出会い）、公的事業報告書作成（学校訪問、日中韓フォーラム）、HPやSNSによる広報活動の推進である。
- ・会員拡大を目標に、有志によるチーム・ミーティング、勉強会等が開催された。さらに、国際交流を掲げる団体とのネットワーク強化（木谷ウォーキング研究所、富士箱根ゲストハウス等）が進んだ。

□事業運営方法を「事務局への個人依存型」から支援団体と連携や会員のボランティア活用へ

・学校訪問プログラムにおける各地の団体との連携

平成30年度のプログラムは、3,000名を超える子供たちが参加した。ご支援を頂いた団体では、（東京都）大田区教育委員会、一般財団法人MRAハウス、（九州地区）北九州市教育委員会、北九州市小倉東ライオンズクラブ、（静岡地区）静岡県教育委員会（つくば地区）つくば市役所。併せて地元会員の熱心なボランティア活動で、ネットワークはますます強くなっている。

・国際フォーラム：実行委員会の企画力と会員ボランティアによる実践力のコラボ

「第40回国際フォーラム」の企画運営に当たって、「実行委員会」を構成し、毎回熱心な審議が行われ「チームの取り組み」が定着。フォーラム開催当日では、多くの会員ボランティアが活躍した。新しい試みでは、プログラムにゆとりを持ち、会員同士のグループディスカッション、ワークショップ形式のアクティビティなどの工夫で、会員同士が深く話し合えた。

・「日中韓フォーラム」における韓国MRAとの連携強化と参加大学生によるネットワーク

当プログラムは、日韓のIC（MRA）協会が連帯して、若き大学生を「世界的な視野を持つ次代のリーダー」として育成するものである。「第4次産業革命」をテーマにした事前の論文提出からスタートし、フォーラム期間中の討論会・交流会、帰国後の感想文提出と一連の流れは、「グローバル教育プログラム」と確立してきた。成果は、論文集としてまとめられた。

□役員（理事・監事）の役割分担制度が定着

・役員「役割分担制度」が定着してきた

公益事業の運営を「個人依存型」から脱皮して、「全役員の役割分担型」へ移行する流れが定着。具体的には、財務面の分析とアドバイス、海外団体とのコミュニケーションなど。今後は、役員が持つネットワーク、経験、専門知識を最大限に活かした態勢構築を目指す。

□新事務局体制（女性中心）の確立に向けて全役員がサポートする

・理事会運営の効率化と経理体制の見える化

事務局長及び事務担当の努力により、理事会運営が大きく改善され効率的になった。そのため、IC協会の事業継続など、本質的な議論が行われた。次年度は更なる業務改革が期待される。

□外部ネットワークと広報活動

・外部委託先による広報活動の効率化

個人依存型のため、多くの時間を要していた広報活動（ICニュース、ホームページ等）が効率化され、2つの公的事業報告書の作成もできた。今後もさらなる改善を進めて、少数精鋭での事務態勢をめざす。

II 事業活動の概要

【公益事業1】国際会議の開催による国の健全な発展及び世界平和に資するための事業

＜事業名＞ 第40回IC国際フォーラム（The 40th Initiatives of Change International Forum）

＜実施期間＞ 2018年11月17日（土）～18日（日）

＜開催場所＞ 国際文化会館（東京都港区）

＜事業の概要＞ □参加者：64名

会議の主テーマを「信頼の架け橋を一人ひとりから」と定め、国内外から招聘した多様な背景を持ち 様々な経験を積んだ講演者の IC(Initiatives of Change) の考え方に基づいて生きる姿勢から、自ら社会に新しい展開を切り拓いた経験を聴き、また世界情勢について学ぶ機会を持った。グループミーティングや講演等を通して、それぞれの違いをお互いに受け入れ、相互に尊重する感性を養った。更に人生で大切な価値や方向性を学ぶため内省する時間を持ち、家庭に、社会に、そしてやがては国際関係にまで変革をもたらす架け橋となるため、各人が社会に貢献するため小さな架け橋の一步を踏み出す契機を探った。参加者は64名（内訳は海外9名、一般52名、留学生1名、小学生2名）、小学生から80才を超える老若男女が参加した。

＜事業の成果＞

様々な背景を持つ国内外の参加者と話し合い、自分自身を見つめ、どのような家庭を築き、それぞれの与えられた環境の中で、どのように社会貢献するか、持続可能な平和な世界を目指すための役割は何かを参加者各自が考え、心の奥の声に耳を傾け、自分が行動することで、新しい社会を自らの小さな架け橋から始める契機を探ることができた。

【公益事業2】青少年の健全育成事業

＜事業名＞ 学校訪問プログラム

＜実施期間＞ 2018年6月15日（金）～7月15日（日）

＜開催場所＞ 東京地区、九州地区、静岡地区、茨城（つくば）地区

＜事業の概要＞ □参加者：3,000名超 □来日した海外ボランティア4名

平成30年度は、理事を中心に、熱心な会員の支援を得て、実行委員会活動を行い、東京地区、九州地区、静岡地区、茨城（つくば）地区での学校訪問が実施された。

＜事業の成果＞

様々な背景を持つ国内外の参加者と話し合い、自分自身を見つめ、どのような家庭を築き、どのように社会貢献するか、持続可能な平和な世界を目指すための役割は何かを参加者が考えた。参加した子供たちからは、素晴らしい感想文が寄せられており、各人が社会に貢献する「はじめの一步」を踏み出す契機を探ることができた。

【公益事業3】個人と家庭の健全な発展に資するための事業

＜事業名＞ ICセミナー（ファミリーミーティング）

＜実施期間＞ 2018年12月7日（金）・8日（土）・9日（日）

＜開催場所＞ 富士カーム（富士吉田市）

＜事業の概要＞ □参加者：8名

□内 容：①ファミリーミーティング

②ゲストの話「富士箱根ゲストハウス」、他

＜事業名＞ 各種交流会（IC交流会）

＜事業の概要＞

会員間の相互理解と信頼を深めるために、「ICと私」の基本テーマの下に、夫々の活動紹介や人生を語る機会とした。ICの精神やその実践による体験等を分かち合うことにより、相互に学び合うと共に 社外講師による講演も織り交ぜ、新たなネットワークを築く場ともなっている。

（第3日曜日が定例会として定着）

（開催内容）次のテーマ及び日程で計7回開催した。

① 1月度（1月21日）

富士箱根ゲストハウスの外国人宿泊客はなぜリピーターになるのか？」

富士箱根ゲストハウス代表（VISIT JAPAN 大使）高橋 正美 様

② 2月度（2月18日）

「世界8カ国（独・仏・中・米・伯・欄・葡・白・日）に暮らして見てわかったこと」

HAUT PONT 研究所 代表 高橋 衛 氏

③ 4月度（4月15日）

「社会貢献活動の紹介と私自身の課題『新しい命と 死を待つ人の家』 設立への模索」

当協会会員タイ在住 ジャトゥラノン純子 氏

④ 6月度（6月17日）

「本年の学校訪問プログラムのために来日したゲストからのお話し」

モハメッド・ガブリス（レバノン）、ウィマアルシャナ・ラナシング（スリランカ）、

カルマ・ナムギャル（チベット／インド）、シティ・ルコヤ（インドネシア）の各氏

⑤ 7月度（7月14日）

「本年の学校訪問プログラムのために来日するゲストからの感想と報告」

モハメッド・ガブリス（レバノン）、ウィマアルシャナ・ラナシング（スリランカ）、

カルマ・ナムギャル（チベット／インド）、シティ・ルコヤ（インドネシア）の各氏

「日本側からの感想と報告」

山本愛、田口ヤス子、角杉美恵子、中山啓介、木村清隆、木村陸の各氏

⑥ 9月度（9月16日）

「今こそ東アジアの平和を 昨年の第14回東北アジア青年フォーラムに参加して」

一般財団法人木谷ウォーキング研究所 代表理事 木谷道宣 氏

⑦ 10月度（10月21日）

「アジアの独立と日本の使命。知られざるイスラームの世界」

拓殖大学客員教授 木本あきら 氏

＜事業名＞ 九州サークル勉強会

＜実施期間＞ 2018年3月3日（土）～3月4日（日）

＜参加者＞ 3月3日（土）：参加者28名、3月4日（日）：参加者23名

＜開催場所＞ 福岡 九電ビル共創館カンファレンス D

平成30年3月3日・4日国際 IC 九州サークル勉強会を開催。テーマは「日本と朝鮮半島」。南北朝鮮の現状を知るために、それぞれ異なった視点から朝鮮をみつめ取り組み、また、戦争、捕虜、中国、中東、朝鮮…世界の情勢を正しく知ろう！と知識や情報を集め理解に努めた。この学びは私たちの物事の捉え方を変え、悲惨な事件を恐ろしい、可愛そう、に終始するのではなく、同じ社会に生きる人間の一人として自分の生き方を問う機会となっている。

【公益事業4】国際相互理解と友好を促進するための共同事業

＜事業名＞「第4回日韓大学生討論会」「第15回東北アジア（日中韓）青年フォーラム」

＜実施期間＞ 2018年8月20日～8月26日（6泊7日）

＜開催場所＞ 韓国・AWコンベンションセンター（ソウル）
・国立中央青少年修練院（天安）

＜事業の概要＞ □参加者：80名

[第4回日韓大学生討論会]

メインテーマ：「偏見を越え理解と和合の未来へ」

サブテーマ：1) 「日本に対する韓国人の偏見と課題」

韓国の学生代表による発表と日本人学生代表による討論

サブテーマ：2) 「韓国に対する日本人の偏見と課題」

日本の学生代表による発表と韓国人学生代表による討論

[第15回東北アジア（日中韓）青年フォーラム]

メインテーマ：「第4次産業革命と青少年」

サブテーマ：1) 第4次産業革命時代の青少年教育（韓国発表）

2) 第4次産業革命時代の国際協力（中国発表）

3) 第4次産業革命時代の正しい価値観（日本発表）

日本団は合計18名。

大学生（7大学15名、その内11名が初参加、4名が複数回参加）

（北海商科大学、日本大学、創価大学、中央大学、北京外国語大学、
都留文科大学、大東文化大学）

この他 IC 引率者、足立憲昭専務理事・成豪哲理事・須崎純史氏の合計18名が参加。

・韓国参加者 学生24名 スタッフ12名／中国参加者 幹部2名 学生24名

＜事業の成果＞

参加学生は、テーマである第4次産業革命について真剣な話し合いを重ね、今後の世界を決めていくのは若者である自分達であると強く認識することができた。また、同じ東北アジアという地域にある3か国であるにも関わらずそれぞれが異なる視点を持つ違いに気づき、多角的に考える能力を学ぶことができた。さらに、日中韓の学生で心を開いて語り合い、7日間の共同生活や交流を通して、心から大切だと思える友情を築くことができ、それぞれが新しい人生につながる自らの課題と目標を明確に設定することができた。

【公益事業5】機関誌発刊並びにホームページによる啓発事業

＜事業の概要＞

世界各地のイニシアティブの紹介、会員相互の情報交流や啓発活動を目的に、定期的な機関誌「ICニュース」発行。ホームページ活用で、議事録、イベント報告等の伝達や、新規会員の募集やイベント参加募集を効果的・効率的に行えた。さらに、本年度は2つの公的事業報告書を編纂した。

Ⅲ 庶務事項

《理事会開催》

- (1) 第47回理事会 平成30年2月15日(木) 14時30分～16時30分(於:IC事務所)
出席理事11名(理事総数15名)、出席監事1名(監事総数2名)
審議事項:ア 決議事項2件 イ 協議事項2件 ウ 報告事項 4件
- (2) 第48回理事会 平成30年2月22日(木) 14時～16時(於:IC事務所)
出席理事9名(理事総数15名)、出席監事2名(監事総数2名)
審議事項:ア 決議事項1件
- (3) 第49回理事会 平成30年3月11日(日) 会員総会後(於:IC事務所)
出席理事11名(理事総数15名)、出席監事2名(監事総数2名)
審議事項:ア 協議事項3件
- (4) 第50回理事会 平成30年4月25日(水) 14時～16時(於:IC事務所)
出席理事11名(理事総数11名)、出席監事1名(監事総数2名)
審議事項:ア 決議事項3件 イ 協議事項4件 ウ 報告事項4件
- (5) 第51回理事会 平成30年6月20日(水) 14時～16時(於:IC事務所)
出席理事8名(理事総数11名)、出席監事2名(監事総数2名)
審議事項:ア 決議事項 3件 イ 報告事項6件
- (6) 第52回理事会 平成30年9月20日(木) 14時～16時(於:IC事務所)
出席理事9名(理事総数11名)、出席監事1名(監事総数2名)
審議事項:ア 報告事項5件 イ 協議事項1件
- (7) 第53回理事会 平成30年10月29日(月) 14時～16時(於:IC事務所)
出席理事9名(理事総数11名)、出席監事1名(監事総数2名)
審議事項:ア 協議事項2件 イ 報告事項3件
- (8) 第54回理事会 平成30年12月9日(日) 9時～10時(於:人材開発センター富士カーム)
出席理事5名(理事総数11名)、出席監事1名(監事総数2名)
審議事項:ア 決議事項2件 イ 報告事項1件

《登記事項》

平成30年3月11日(日)の定時会員総会と、引き続き開催した臨時理事会の選任決議を受けて、代表理事並びに理事・監事の登記申請を9月11日に行い受理された。

《役員に関する事項》

平成30年3月11日(日)の定時会員総会に引き続き開催した臨時理事会に於いて、以下のとおり役職役員の選任を行いそれぞれ就任した。

〈内訳は下記のとおり〉

- 重任 代表理事 矢野弘典
- 重任 理事 橋本徹・矢野弘典・石川勝一・大隈尚子・兼松恵・木村清隆・成豪哲
田口ヤス子・田中章博・藤田幸久
- 就任 専務理事 足立憲昭
- 重任 監事 佐谷隆一
- 就任 監事 松井保幸
- 退任 監事 足立憲昭
- 退任 理事 太田和江・加藤光久・金生郁子・鈴木洋子・ゴダクンプラ カピラバンダラ

《職員に関する事項》

該当事項なし

以上